

日本教育心理学会総会 発表論文集原稿作成要領

【1】テンプレート

1. 発表論文集原稿は必ず「提出用のテンプレート」を使用して作成してください。
2. 個人発表は1発表につきB5サイズ1ページ、会員企画シンポジウムは1企画につきB5サイズ2ページです。
3. テンプレートのタイトル等の領域を除く本文部分は、文字のポイントや各段の中の文字数を変更することができますが、余白は変更しないでください。
4. 「提出用のテンプレート」は、発表内容(発表部門、タイトル、キーワード、発表要旨、発表者全員の氏名、会員・非会員の別、会員番号等；会員企画シンポジウムの場合は登壇者の役割も)を登録した後に、申込みシステム内でダウンロードできます。
5. ダウンロードしたテンプレートには、登録したタイトルや発表者名等が自動で入ります。これは、申込みシステムに登録されている内容と原稿との不整合を防ぎ、登録された内容をもとに発表論文集の目次等を正確に作成するためです。
6. テンプレートに自動で組み込まれたタイトル、サブタイトル、発表者の氏名、所属、責任発表者(○印)、発表者の順番、会員・非会員(井印)の別、キーワード(会員企画シンポジウムの場合は登壇者の役割も)に誤りがないかご確認ください。連名発表者・登壇者の所属については必ずご本人に確認してください。
7. タイトルや発表者名等、上記6の内容を変更する場合は、申込みシステムで登録内容を変更してから、再度テンプレートをダウンロードし直してください。
8. タイトルや発表者名等のレイアウトは、編集の際に整えます。
9. 原稿の準備・調整のために、「下書き専用のテンプレート」を学会ホームページの「総会」のページに載せていますのでご利用ください。

【2】ファイル名

申込みシステムからアップロードする際のファイル名は、必ず、発表部門名 会員番号 責任発表者氏名(会員企画シンポジウムの場合は責任企画者氏名)としてください。発表部門名は最初の2文字とし、スペースは不要です。

＜ファイル名の例＞

発達 1112345 教心太郎 教授 1116478 心理花子 特別 1109876 教育一郎

【3】原稿の形式

発表論文集は、『教育心理学研究』、『教育心理学年報』に準じて、原稿の形式を統一しています。以下は「日本教育心理学会論文作成の手引き」からの抜粋です。お読みいただき、これに沿って原稿を作成してください。

◆ 見出し

1. 見出しは、ゴシック体とする(太字にはしない)。
2. 見出しには、番号は付けない。

3. 中央大見出しは、行の中央におき、その上下は1行あける。
4. 横大見出しは、行をあけず左端から書き、本文は改行して、全角1字あけて始める。
5. 横小見出しは、行をあけず左端から全角1字あけて書き、本文は全角1字あけて書く。

◆ 本文

1. 文字フォントは明朝体とする。
2. 句読点は「,」と「。」を用いる。
3. 統計量を表す記号はイタリック体とする。
4. 強調のための太字や下線は用いない。

◆ Table と Figure

1. Table と Figure 内の文字や数値は、本文のフォントとあわせて明朝体とする。
2. Table は、Table の上に Table 番号と Table の題を書く。番号の後は改行し、番号、題とも左寄せとする。題の最後に句点（。）は付けない。また、Table 番号のみ、**Table 1** のように太字とする。
3. Figure は、Figure の上に Figure 番号と Figure の題を書く。番号の後は改行し、番号、題とも左寄せとする。題の最後に句点（。）は付けない。また、Figure 番号のみ、**Figure 1** のように太字とする。
4. Table 中の見出しと数値は中央そろえとし、Table の左端の項目は左そろえとする。
5. Table 中の数字が、比率や相関係数のように（絶対値が）1を超える値をとらないものである場合、1の位の0を付けずに、小数点と小数点以下の数字のみを書く。
6. Table の注は Table の下に左寄せでおき、説明文の終わりには句点（。）を付ける。ただし、説明が文でなく、短い語句のときは句点は付けない。
7. Table 全体に関する注は、Table 中には符号を付けず、「注）」（複数の場合は番号も付ける）と書いてその後に書く。
8. Table 中の特定の部分に関する注は、Table 中の該当箇所に符号を上付きのアルファベット小文字で付け、その符号ごとに説明する。
9. Table や Figure で統計的な有意水準を示すには、数値の右肩に上付きの「*」や「**」を付け、Table の下に左寄せで、「* $p < .05$ ** $p < .01$ 」のようにコンマやピリオドを入れず、全角1文字あけて並べる。
10. Table や Figure は、不要な色や線は除去してシンプルなものにする。
11. Figure の注は、上記6～8のTableの注に準じる。

◆ 引用文献

1. 引用文献欄の見出しは、「引用文献」とし、中央大見出しとする。
2. 各引用文献の2行目以降は、全角1字分下げる。
3. 引用文献の副題は、日本語文献の場合は1倍ダッシュ（—）の後に続け、副題の後にはダッシュをつけない。外国語文献の場合は半角のコロンの後に半角あけて続ける。
4. 句読点は半角のコンマと半角のピリオドとし、最後の句読点を除き、句読点の後は半角あける。

5. かっことは半角とし、右かっこの後に句読点を付ける場合と逐次刊行物の巻の後に号を入れる場合以外は、かっこの前後を半角あける。
6. 印刷中の論文は、刊行年の箇所に「(印刷中)」と明記し、投稿中の論文は、末尾に「(投稿中)」と明記する。投稿中の論文については投稿先の雑誌名は書かない。
7. 日本語文献の著者名の姓と名の間は、姓または名（両方の場合を含む）が1文字である場合に限り、半角あける。
8. 日本語文献が共著の場合、各著者名の上に全角のナカグロ（・）を入れる。
9. 特に以下の点には留意すること。
 - a) 日本語文献と外国語文献をまとめて、著者のアルファベット順に並べる。
 - b) 引用文献の発行年の記載は、著者名の後、半角スペース、半角左かっこ、年、半角右かっこ、半角ピリオドとする。
 - c) 外国語の論文題目は、主題および副題の最初の文字のみ大文字とし、イタリックにはしない。
 - d) 外国語の雑誌名は、主要語の頭文字を大文字とし、イタリックにする。
 - e) 外国語の書籍題目は、主題および副題の最初の文字のみ大文字とし、イタリックにする。
 - f) 逐次刊行物の巻数は、イタリック体とする。
 - g) 逐次刊行物の巻の中に号がある場合、号は巻の後にかっこに入れ、イタリック体にしない。ページ範囲は、巻を通したページ番号が入っている場合は、巻の通しページ番号を記載する。
 - h) 翻訳書には原著者名、原著書名、刊行年も明記する。

例) Zimmerman, B. J., Bonner, S., & Kovach, R. (1996). *Developing self-regulated learners: Beyond achievement to self-efficacy*. American Psychological Association. (ジーマーマン, B. J., ボナー, S., & コーバック, R. 塚野州一・牧野美知子 (訳) (2008). 自己調整学習の指導—学習スキルと自己効力感を高める 北大路書房)
 - i) 編集書等の特定章を引用する場合、ページ範囲は書籍名の後に入れる。

例) 柴山 直 (1999). 不完全なデータから総合得点を求める方法 柳井晴夫・前川眞一 (編) 大学入試データの解析—理論と応用 (pp. 125-133) 現代数学社
 - j) 書籍の場合、国内外とも、出版社の地名は記載しない（上記 h の例参照）。
 - k) 著者が2～20名の場合、全著者の名前を並べ、英語文献の場合は最後の著者の前に“&”を入れる。著者が21名以上の場合、最初の19名の著者名の後、省略記号(…)を入れ、英語文献の場合も“&”は入れずに、最後の著者名を追加する。
 - l) URL を記載する場合は、特に閲覧日を示す必要があるとき以外は、“Retrieved from”や閲覧日は付けず、URL のみを記載する。

◆ 付記

1. 研究助成や謝辞等がある場合は、これらを「付記」に含めることとし、「謝辞」等の他の見出しは用いない。

以上